令和５年度臼杵市

ヤングケアラー実態調査結果について（概要）

１　調査の目的

〇ヤングケアラーは、家庭内のデリケートな問題であることから表面化しづらく、また社会的な認知度も現時点において低いため、周囲の大人のみならず、子ども自身も自覚がない場合が多いことで、適切な支援に結び付いていないことが課題。

〇経済財政運営と改革の基本方針 2021（令和 3 年 6 月 18 日閣議決定）においても、「ヤングケアラーについて、早期発見・把握、相談支援など支援策の推進、社会的認知度の向上などに取り組む。」とされている。

〇本調査は、臼杵市におけるヤングケアラーと思われる子どもを正確に把握するため、ケアの対象者及びその内容、頻度などの現況、相談先や支援ニーズ等を把握し、ヤングケアラーとしての自覚などヤングケアラーの実態を把握するとともに、市の施策の基礎資料とすること。**また、記名者に対する早期支援を講ずることを目的とする。**

２　調査の実施要領

（１）小学生調査（設問数：２５）※令和３年度大分県実施の調査の設問数：７８

〇調査時期　　：令和 5 年 10 月～12 月

〇調査対象者　：臼杵市に住民票がある市内 13 校に在籍する小学生 5 年、6 年生

〇調査方法　　：学校を通じた WEB を利用した回収調査

（２）中学生調査（設問数：３８）※令和３年度大分県実施の調査の設問数：７９

〇調査時期　　：令和 5 年 10 月～12 月

〇調査対象者　：臼杵市に住民票がある市内 5 校に在籍する中学生

〇調査方法　　：学校を通じた WEB を利用した回収調査

（３）高校生年代調査（設問数：３８）※令和３年大分県実施の調査の設問数：７９

〇調査時期　　：令和 5 年 10 月～12 月

〇調査対象者　：臼杵市に住民票がある高校生年代のすべての者

〇調査方法　　：郵送発送、郵送回収及び WEB を利用した回収調査

３　回答結果

	調査対象数	WEB 回収数	郵送回答数	有効回答数	有効回答率
小学生調査	539	496	－	496	92.0%
中学生調査	885	738	－	738	83.4%
高校生年代調査	843	113	94	207	24.6%
合計	2,267	1,347	94	1,441	63.6%

①　ヤングケアラーの存在

◎令和５年度臼杵市ヤングケアラー実態調査（結果概要）

	生徒数	回答数	回答率	世話をしている家族いると回答		世話のため、やりたいことができない（ヤングケアラー疑い）		認知度【聞いたことがない】
小学生（5･6年）	539 人	496 人	92.0%	109 人	22.0%	13 人	2.6%	53.8%
中学生	885 人	738 人	83.4%	48 人	6.5%	8 人	1.1%	18.8%
高校生年代	843 人	207 人	24.6%	9 人	4.3%	2 人	0.9%	14.9%
合計	2,267 人	1,441 人	63.6%	166 人	11.5%	23 人	1.6%	30.3%

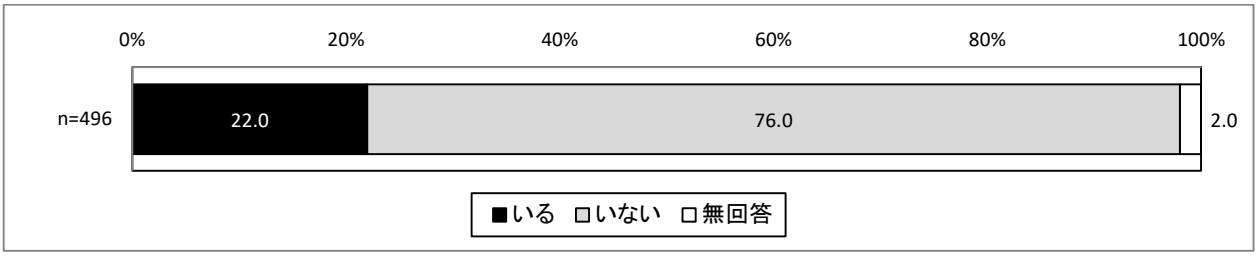
〇世話をしている家族がいると回答した児童・生徒が 166 人おり、世話のためやりたいことができない（ヤングケアラー疑い）と回答した児童・生徒が 23 人いることが確認された。

〇世話をしている家族が「いる」と回答したのは、小学生 22.0%（大分県 6.0%）、中学生 6.5%（大分県 3.8%、全国 5.7%）、高校生年代 4.3%（大分県 2.5%、全国 4.1%）

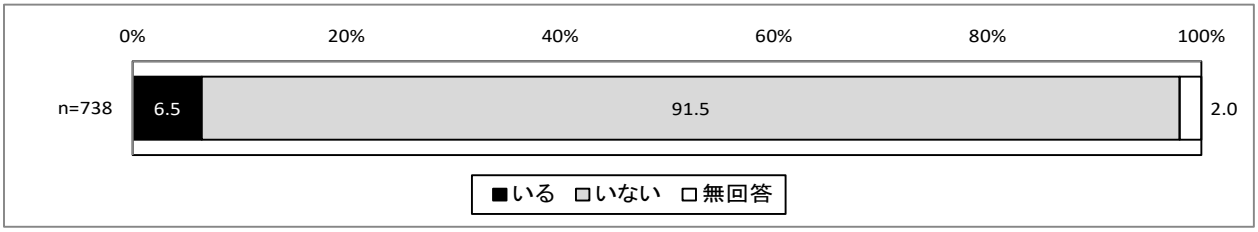
※大分県の割合は、令和３年度に大分県が実施した実態調査の結果

※国の割合は、令和２年度に国が実施した実態調査の結果

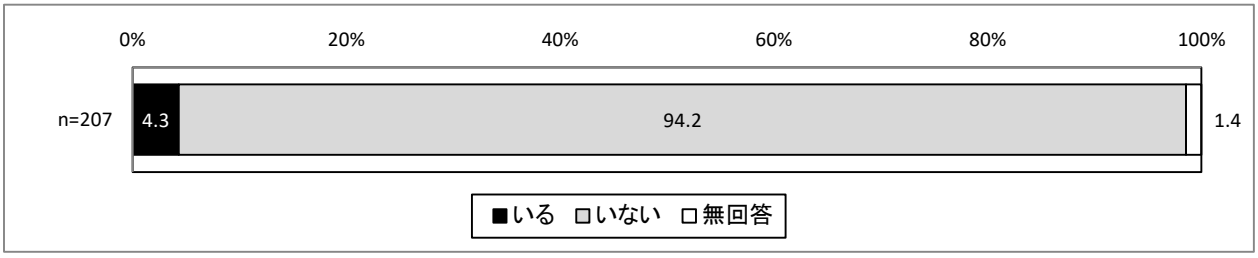
【小学生】



【中学生】



【高校生年代】



②　ケアの状況

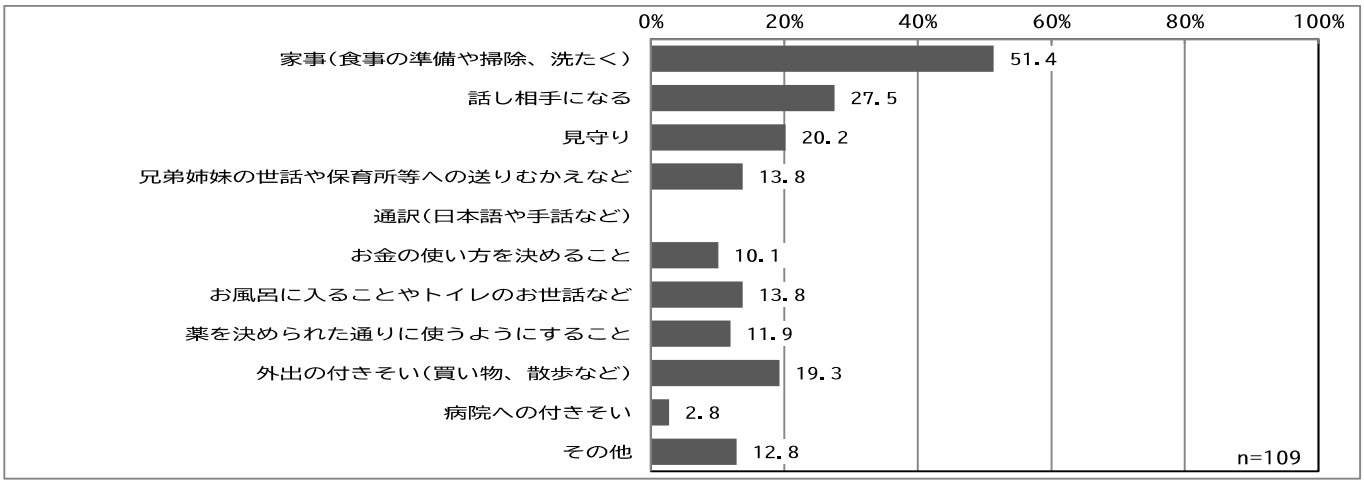
○世話をしている家族が「いる」と答えた人のうち、世話をしている家族の内訳では、中学生では「兄弟姉妹」が最も多く 47.9%（大分県 63.0%）、高校生年代でも「兄弟姉妹」が最も多く 55.6%（大分県 58.6%）

○世話の内容は、小学生で、「家事（食事の準備や掃除、洗たく）」が 51.4%、中学生で「見守り」が 47.9%と多く、高校生年代でも「見守り」が 77.8%と多い。

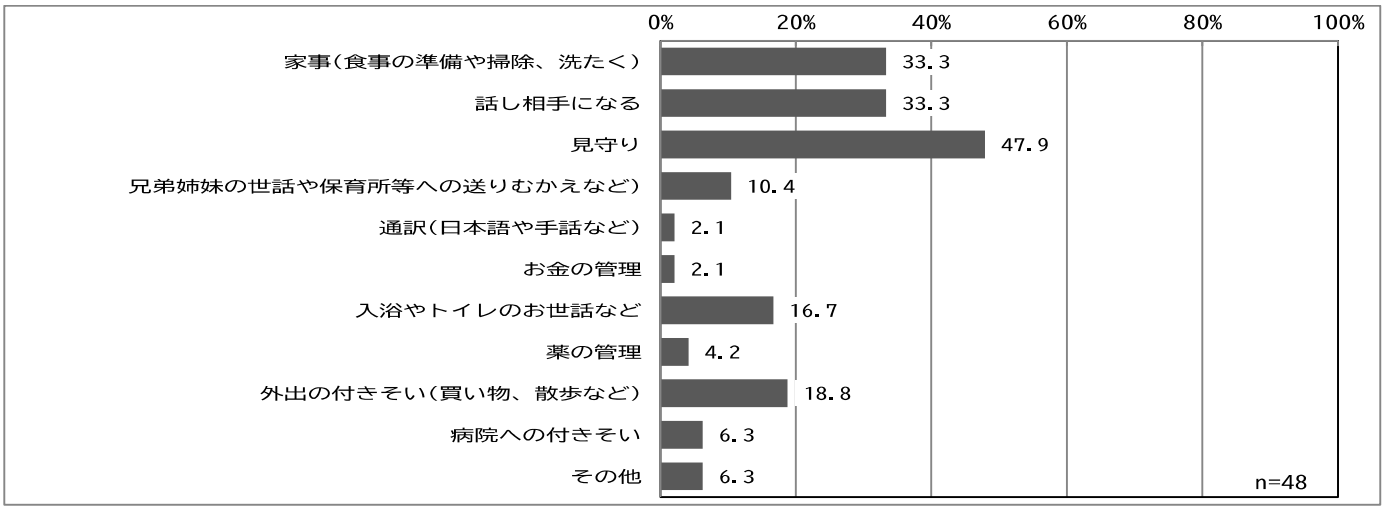
※小学生については、回答のしやすさを優先し、世話の内容のみを聞いている。

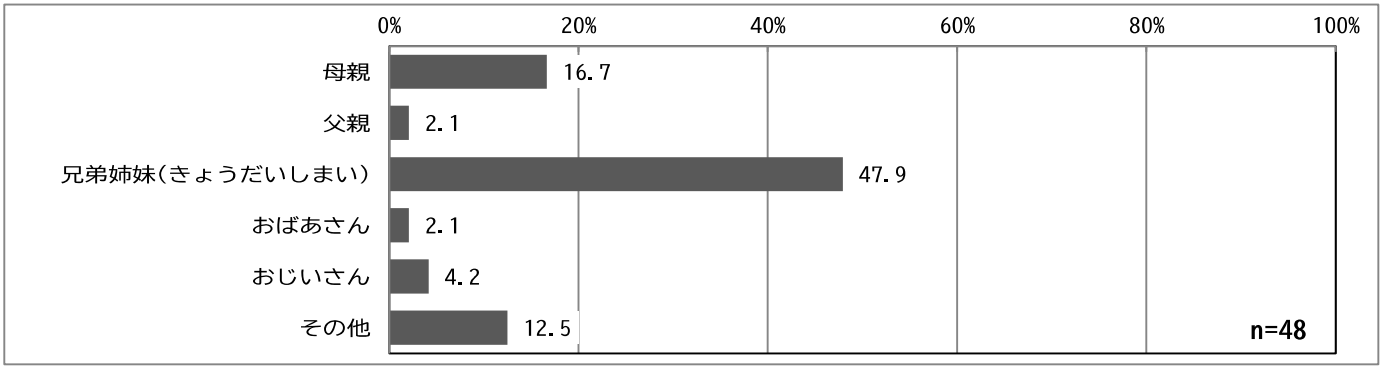
◆世話の内容

【小学生】

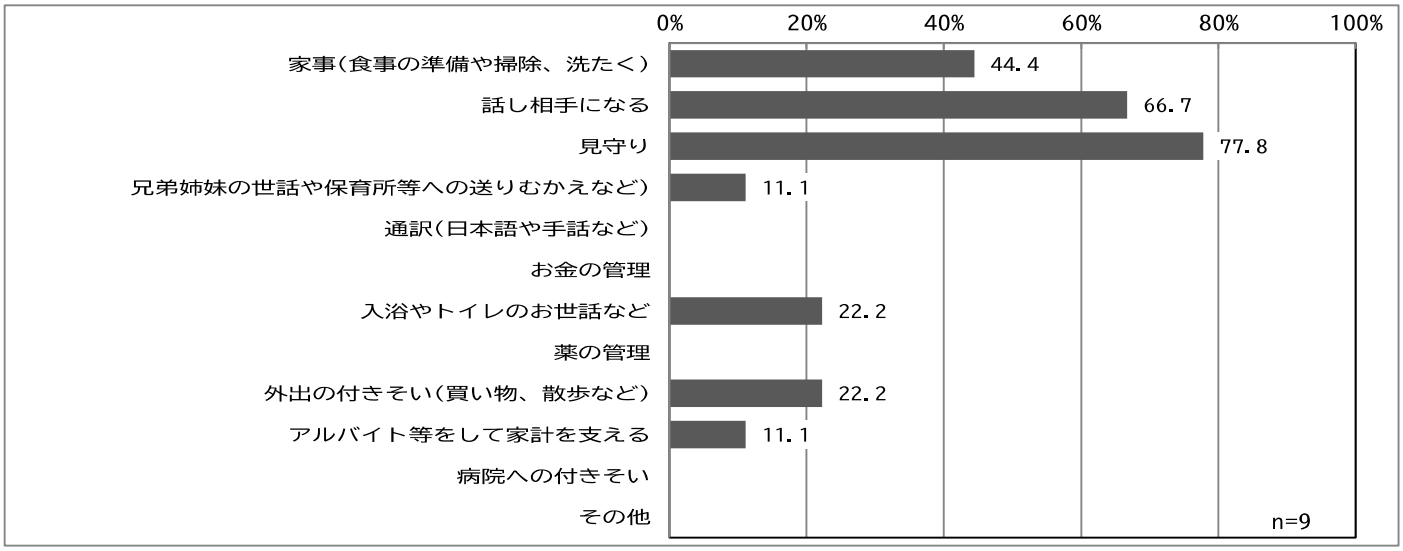


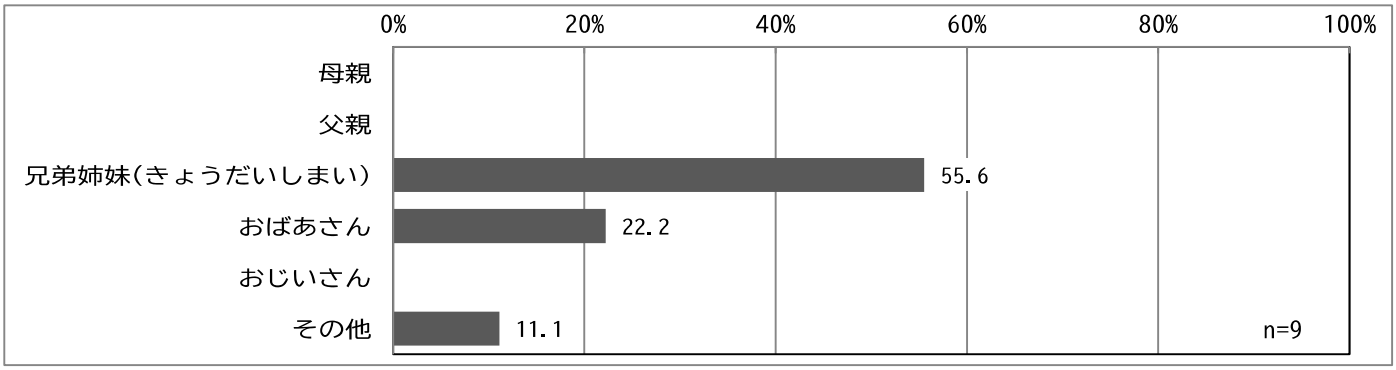
【中学生】





【高校生年代】

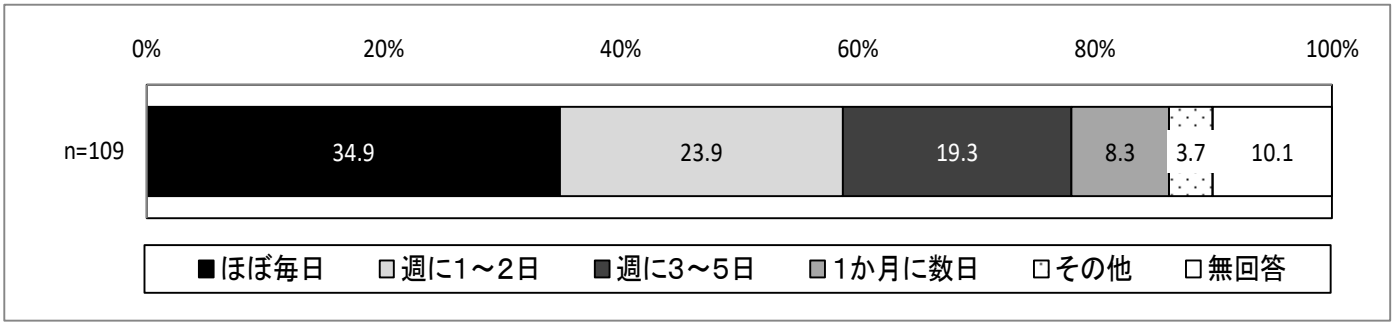




◆世話の頻度

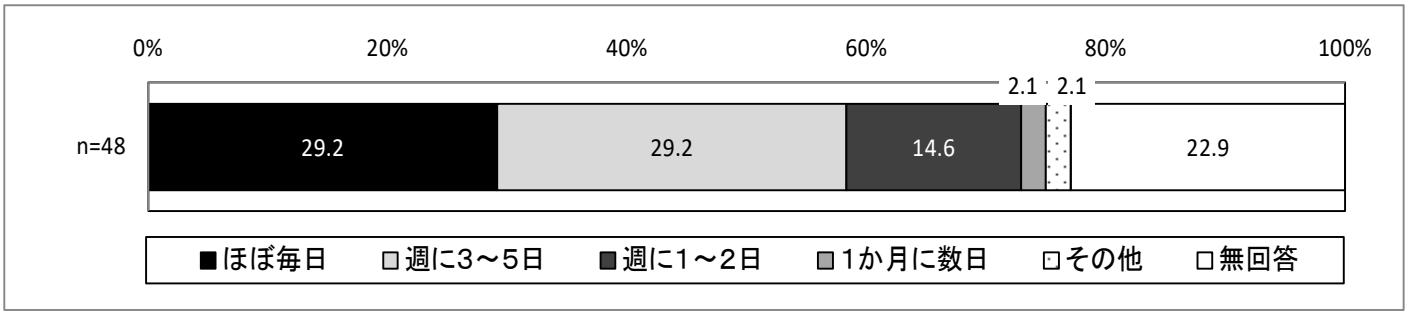
【小学生】

「ほぼ毎日」が 34.9%で最も多く、次いで「週に１～２日」23.9%、「週に３～５日」19.3%の順となっています。



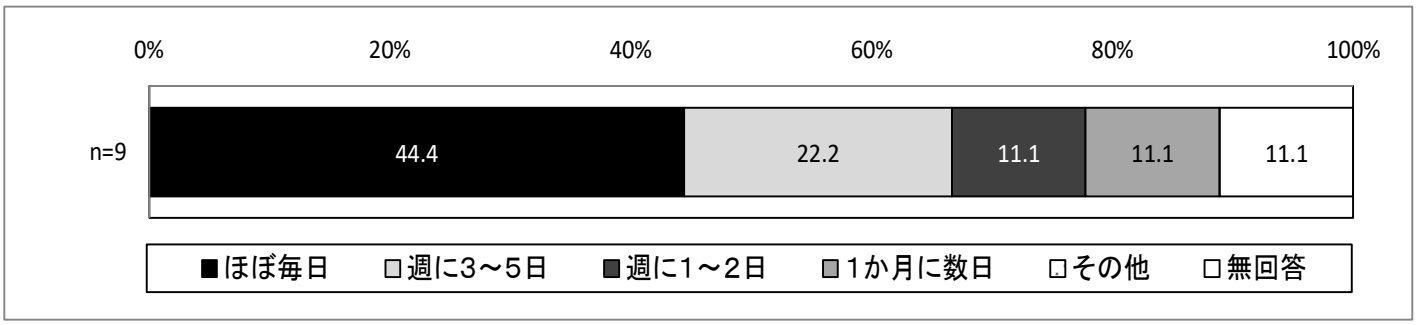
【中学生】

「ほぼ毎日」「週に３～５日」が 29.2%で最も多く、次いで「週に１～２日」14.6%、「１か月に数日」「その他」2.1%の順となっています。



【高校生年代】

「ほぼ毎日」が 44.4%で最も多く、次いで「週に３～５日」22.2%、「週に１～２日」「１か月に数日」11.1%の順となっています。

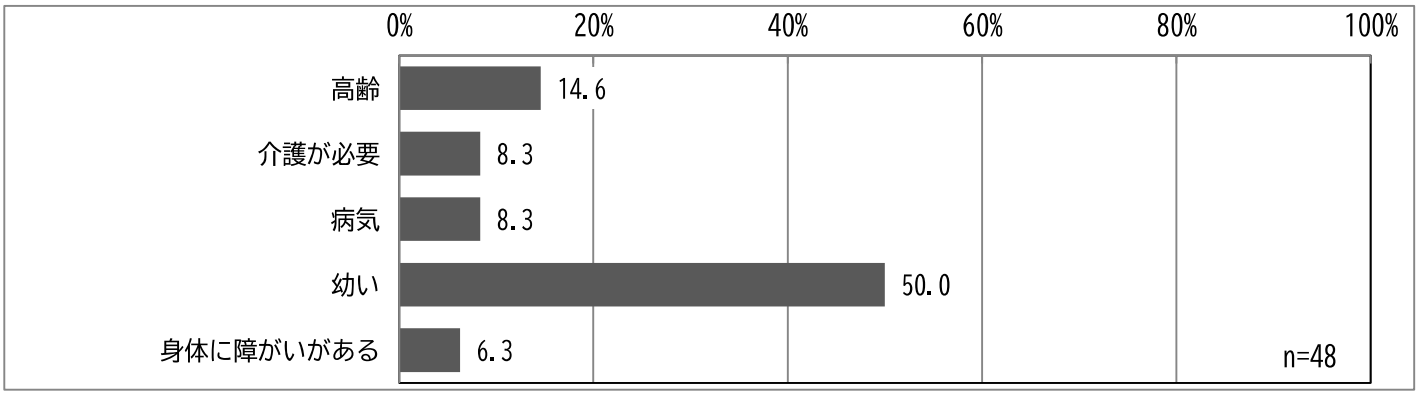


◆世話の理由

※小学生については設問の回答が難しいと判断し、回答のしやすさを優先し、設問を省いている。

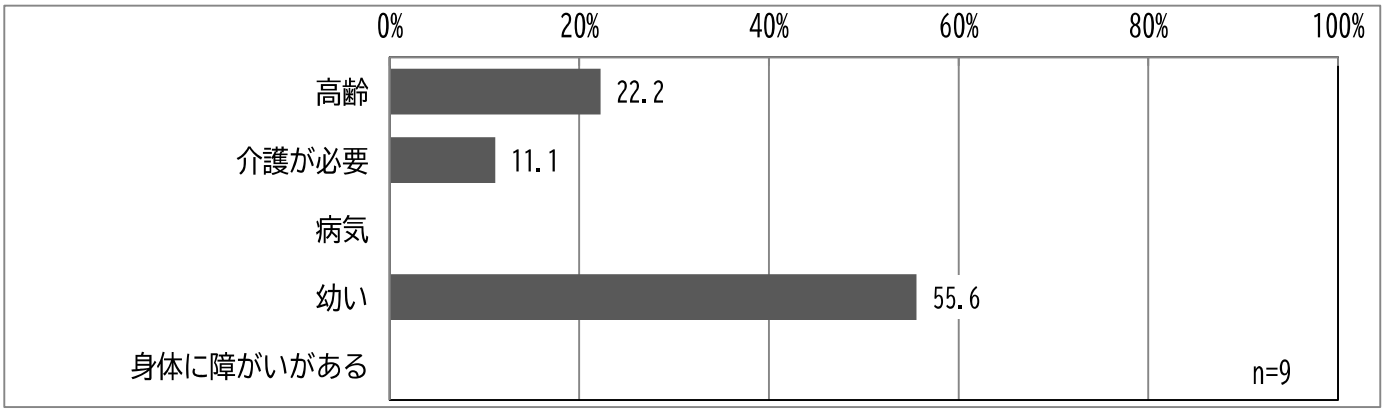
【中学生】

「幼い」が 50.0%で最も多く、次いで「高齢」14.6%、「介護が必要」「病気」8.3%の順となっています。



【高校生年代】

「幼い」が 55.6%で最も多く、次いで「高齢」22.2%、「介護が必要」11.1%の順となっています。



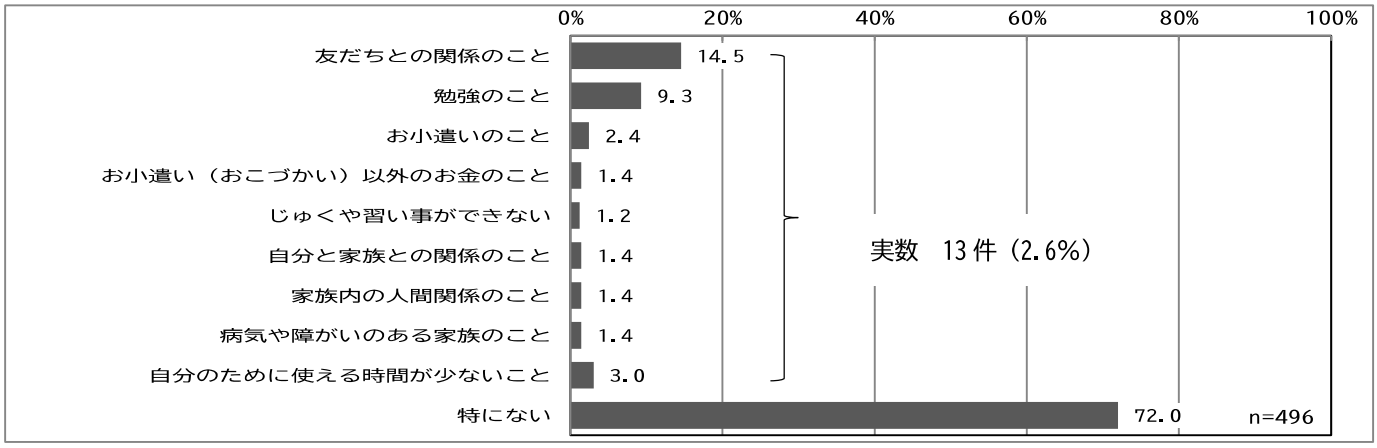
③　ケアの影響

○世話をしているために、やりたいけれどできていないと回答したのは、中学生では８件（中学生全体の1.1%）、高校生年代では２件（高校生年代全体の1.0%）、

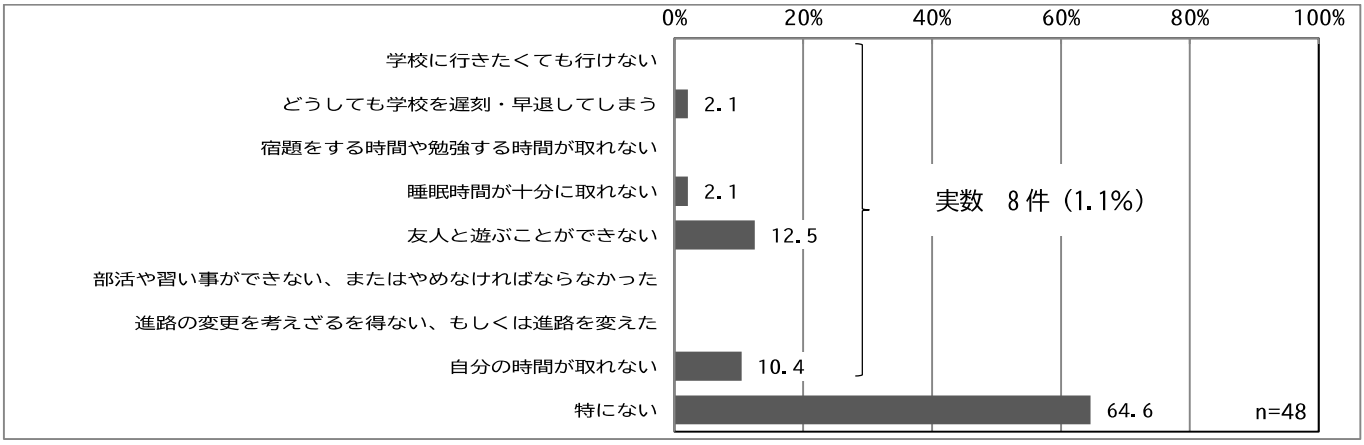
○世話をしていることで「学校に行きたくてもいけない」の回答は、中学生、高校生年代ともに無し、「進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変えた」と回答したのは、高校生年代で１件

※小学生については、別設問で現在の悩みや困りを聞いている（１３人）

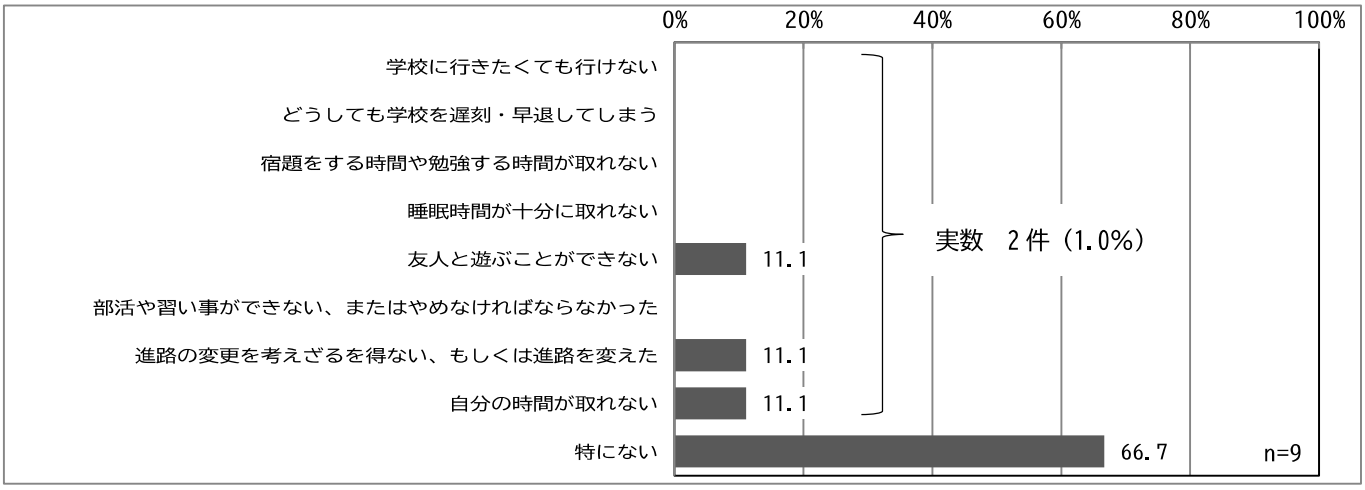
【小学生】



【中学生】



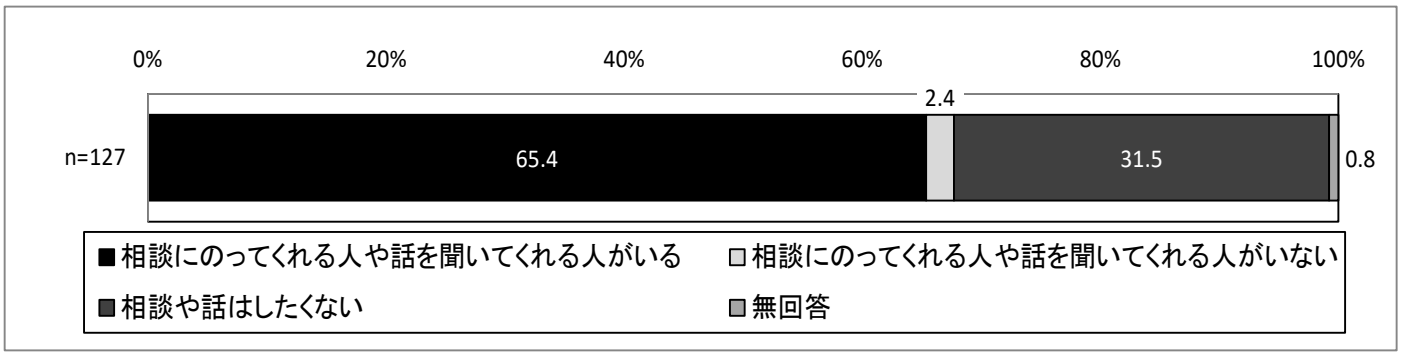
【高校生年代】



◆相談相手の有無

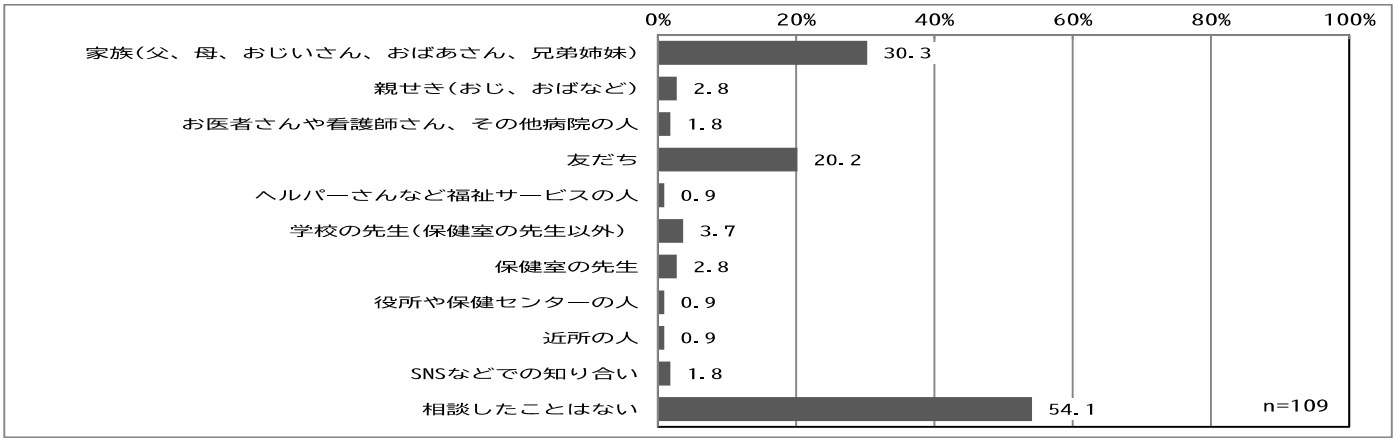
【小学生】

「相談にのってくれる人や話を聞いてくれる人がいる」が 65.4%で最も多く、次いで「相談や話はしたくない」31.5%、「相談にのってくれる人や話を聞いてくれる人がいない」2.4%の順となっています。



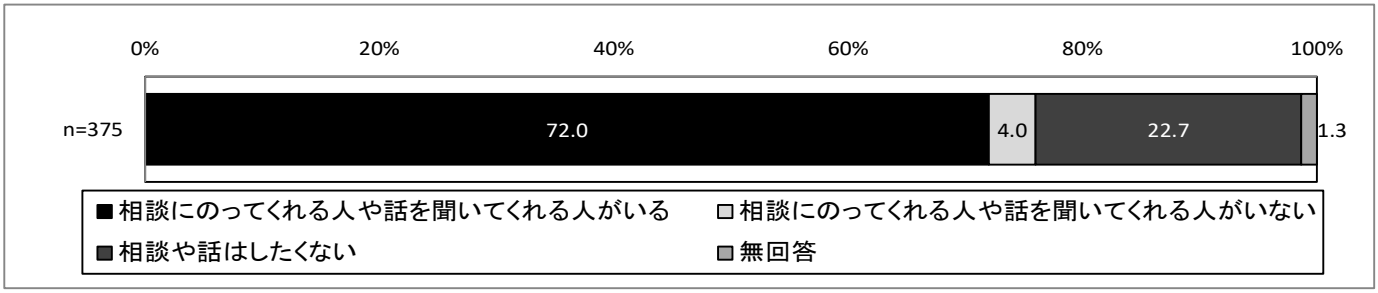
お世話を必要としている家族のことや、お世話のなやみを誰かに相談したことがあるかについて

「相談したことはない」が 54.1%で最も多く、次いで「家族(父、母、おじいさん、おばあさん、兄弟姉妹)」30.3%、「友だち」20.2%の順となっています。

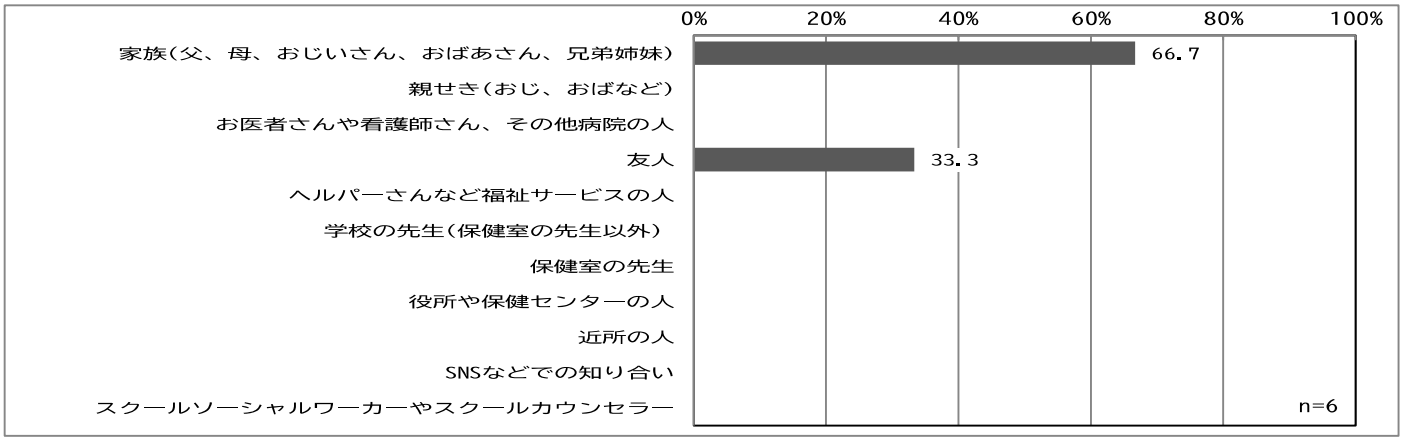


【中学生】

「相談にのってくれる人や話を聞いてくれる人がいる」が 72.0%で最も多く、次いで「相談や話はしたくない」22.7%、「相談にのってくれる人や話を聞いてくれる人がいない」4.0%の順となっています。

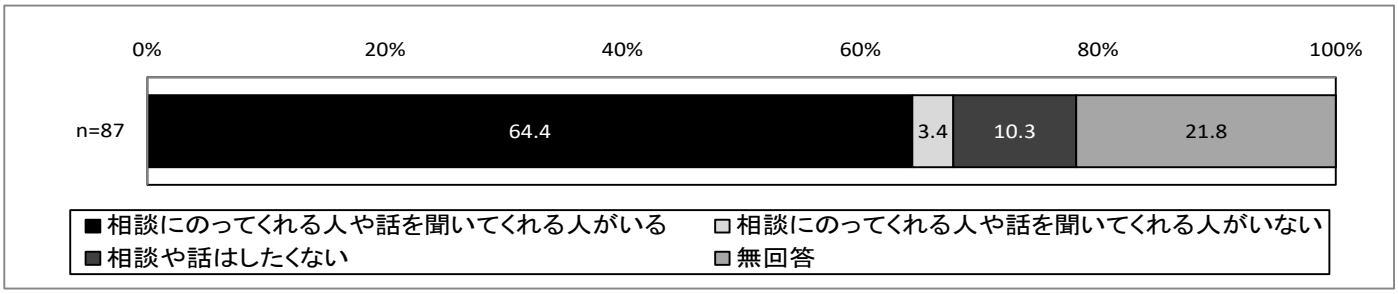


お世話を必要としている家族のことや、お世話のなやみを誰かに相談したことがあるかについて「ある」と回答した生徒のうち、「家族(父、母、おじいさん、おばあさん、兄弟姉妹)」が 66.7%、「友人」が 33.33%となっています。

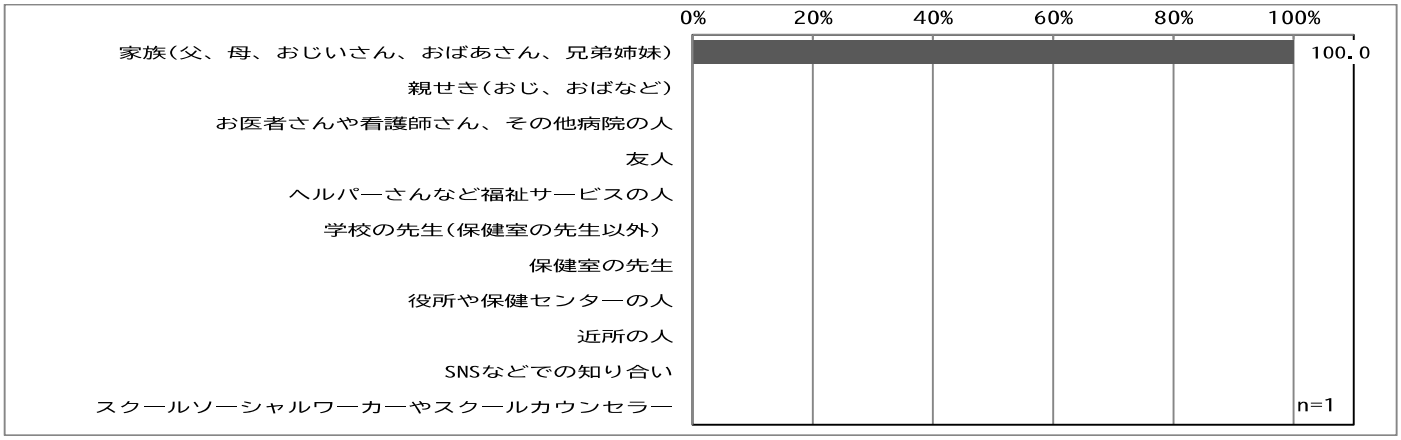


【高校生年代】

「相談にのってくれる人や話を聞いてくれる人がいる」が 64.4%で最も多く、次いで「相談や話はしたくない」10.3%、「相談にのってくれる人や話を聞いてくれる人がいない」3.4%の順となっています。



お世話を必要としている家族のことや、お世話のなやみを誰かに相談したことがあるかについて「ある」と回答した生徒のうち、「家族(父母、おじいさん、おばあさん、兄弟姉妹)」が 100%となっています。

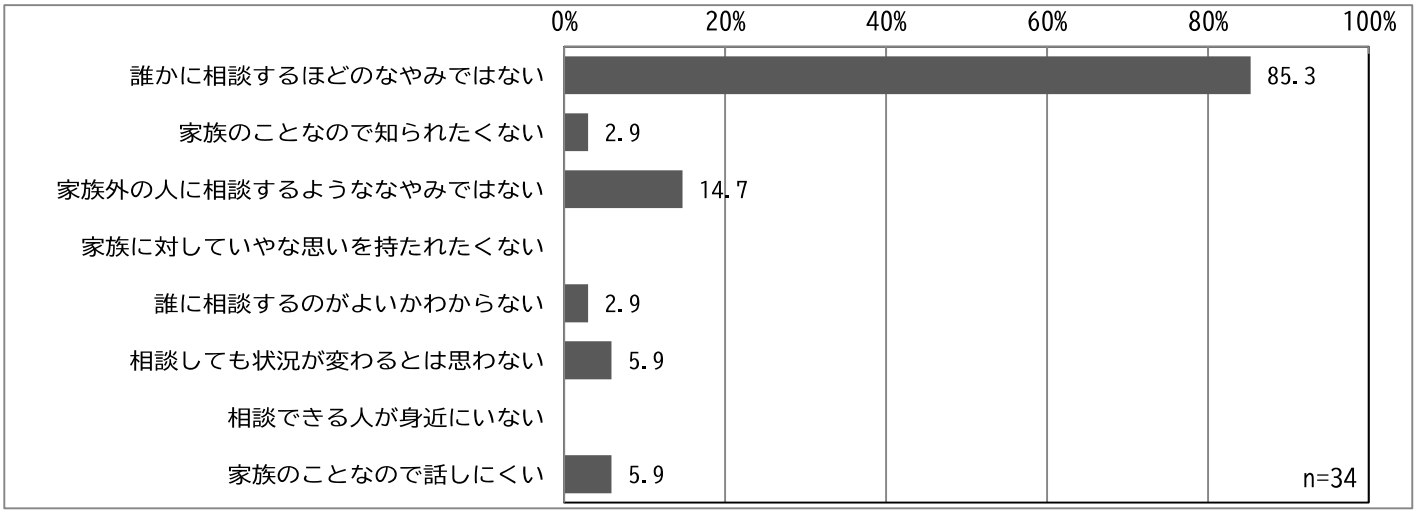


◆相談していない理由
（お世話をしている家族がいると回答している生徒のうち、その家族のことや世話の悩みを誰にも相談したことがないと回答したもの）

※小学生については、回答のしやすさを優先し、設問を省いている。

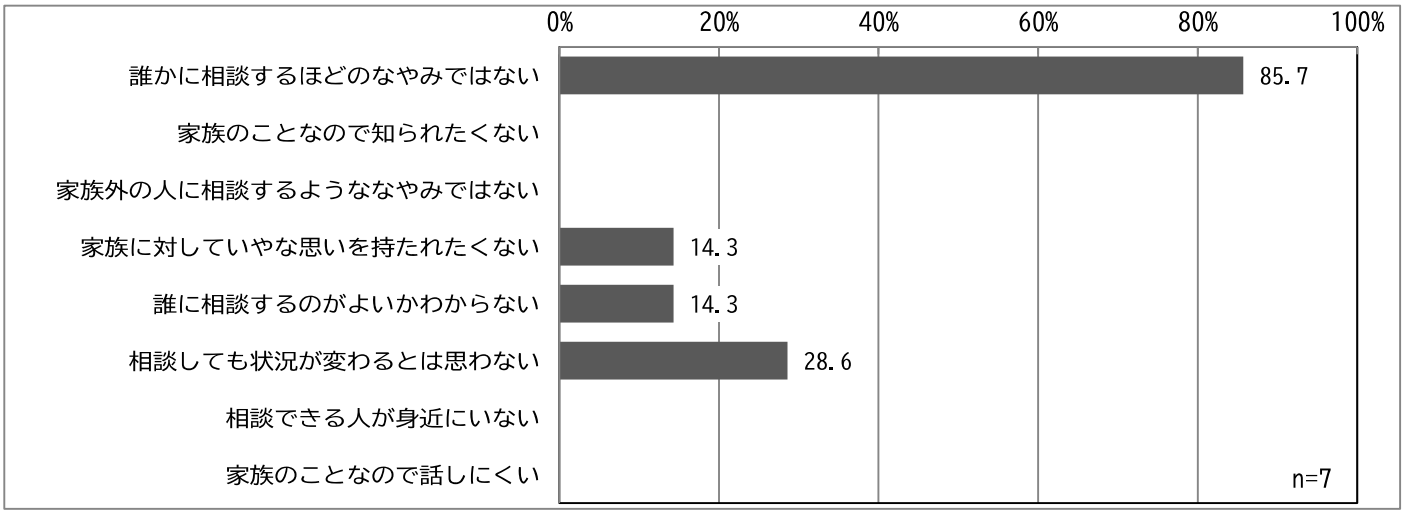
【中学生】

「誰かに相談するほどのなやみではない」が 85.3%で最も多く、次いで「家族外の人に相談するようななやみではない」14.7%、「相談しても状況が変わるとは思わない」「家族のことなので話しにくい」5.9%の順となっています。



【高校生年代】

「誰かに相談するほどのなやみではない」が 85.7%で最も多く、次いで「相談しても状況が変わるとは思わない」28.6%、「家族に対していやな思いを持たれたくない」「誰に相談するのがよいかわからない」14.3%の順となっています。

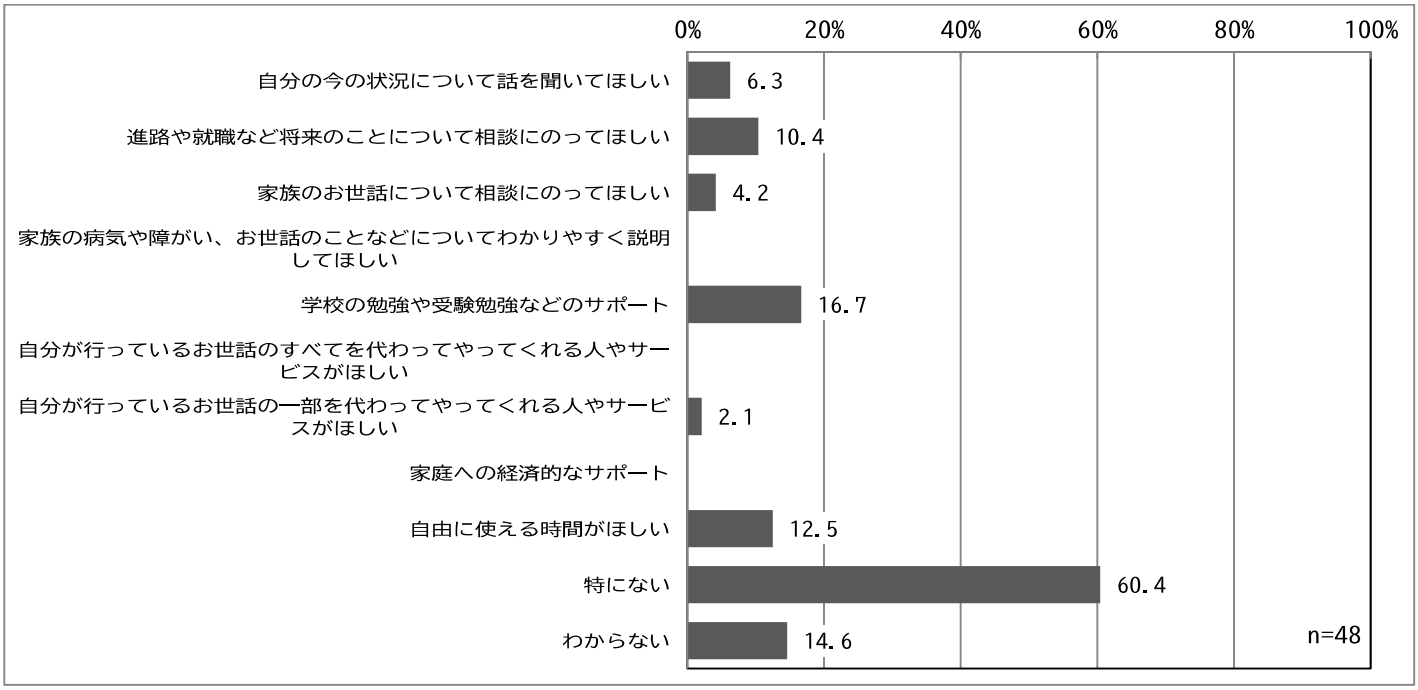


◆助けてほしいこと・望むサポート（家族の世話をしていると回答したもの）

※小学生については、回答のしやすさを優先し、設問を省いている。

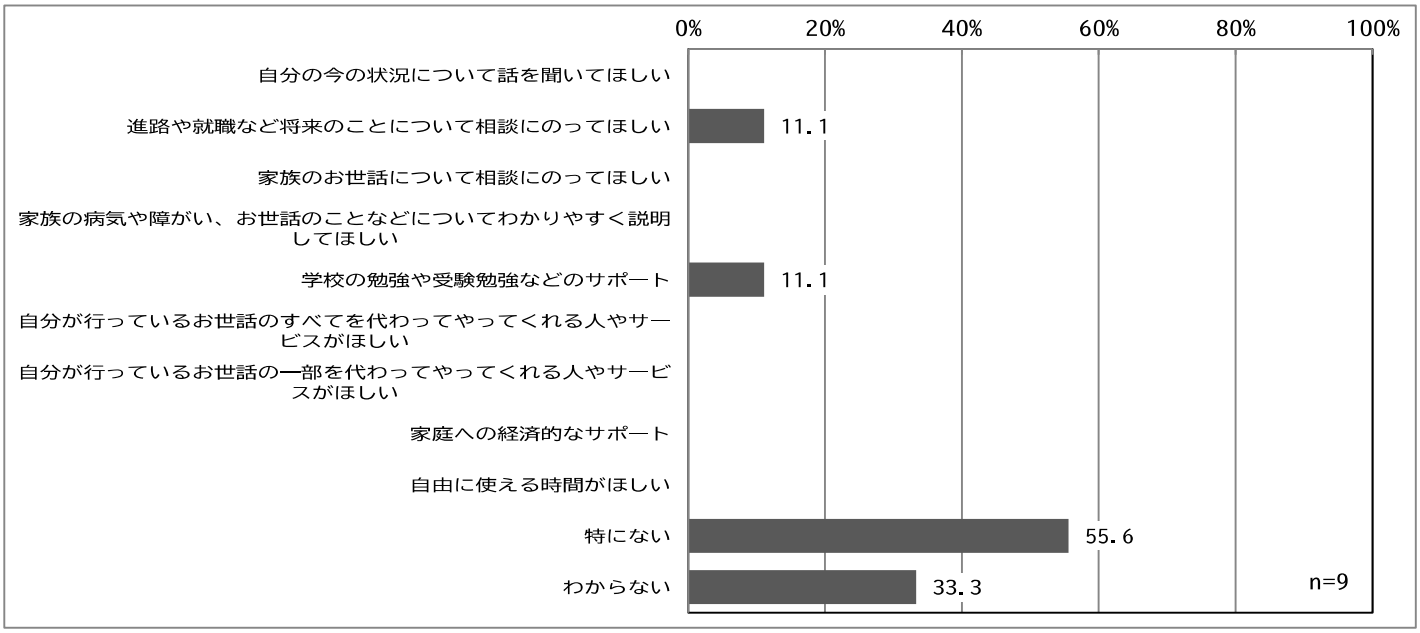
【中学生】

「特にない」が 60.4%で最も多く、次いで「学校の勉強や受験勉強などのサポート」16.7%、「わからない」14.6%の順となっています。



【高校生年代】

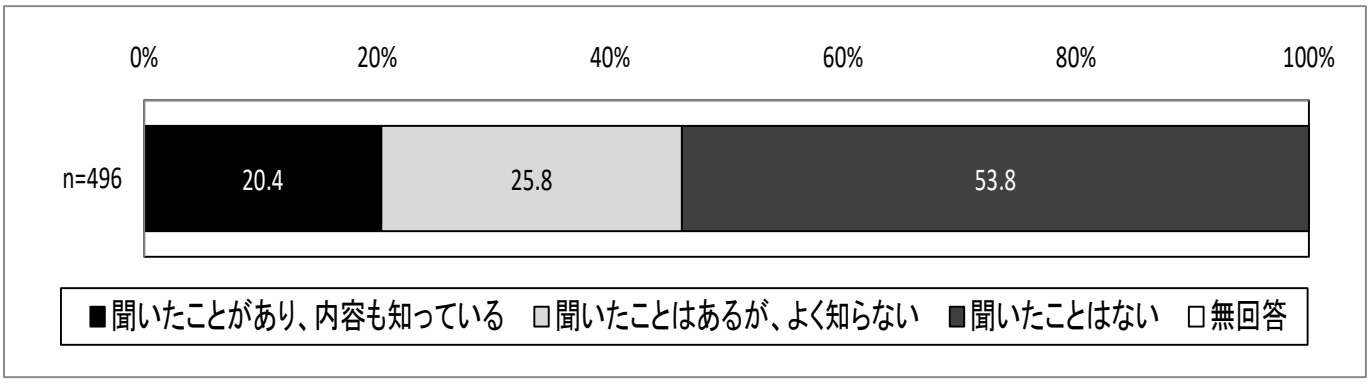
「特にない」が 55.6%で最も多く、次いで「わからない」33.3%、「進路や就職など将来のことについて相談にのってほしい」「学校の勉強や受験勉強などのサポート」11.1%の順となっています。



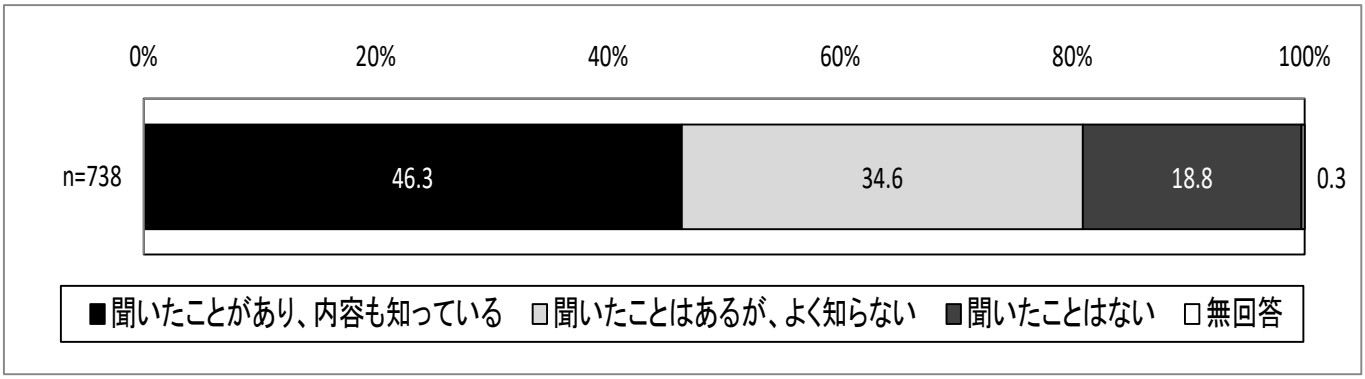
④　ヤングケアラーの認知度

〇ヤングケアラーに関して「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答したのは、小学生 20.4%（大分県 7.4%）、中学生 46.3%（大分県 11.7%、全国 6.3%）、高校生年代 56.5%（大分県 12.5%、全国 5.7%）

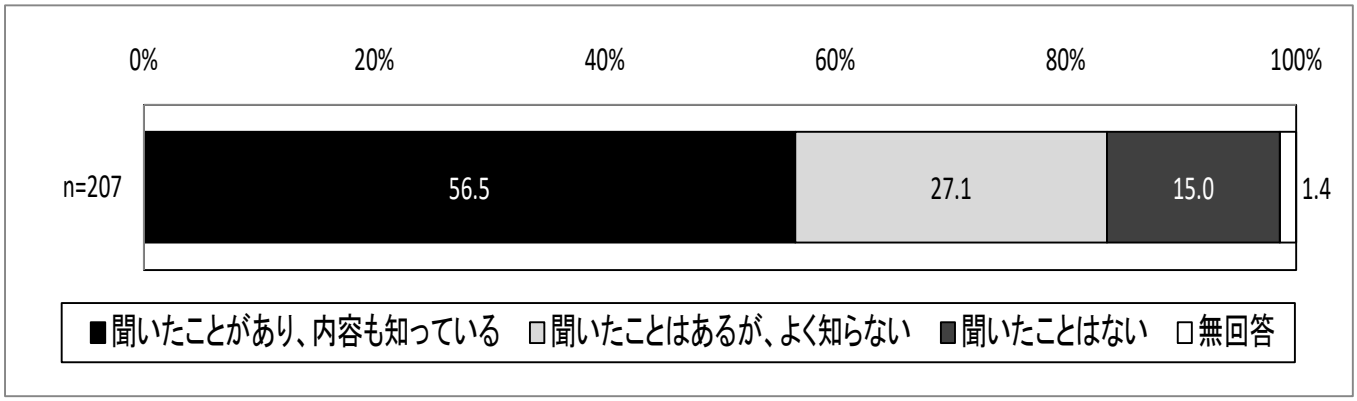
【小学生】



【中学生】

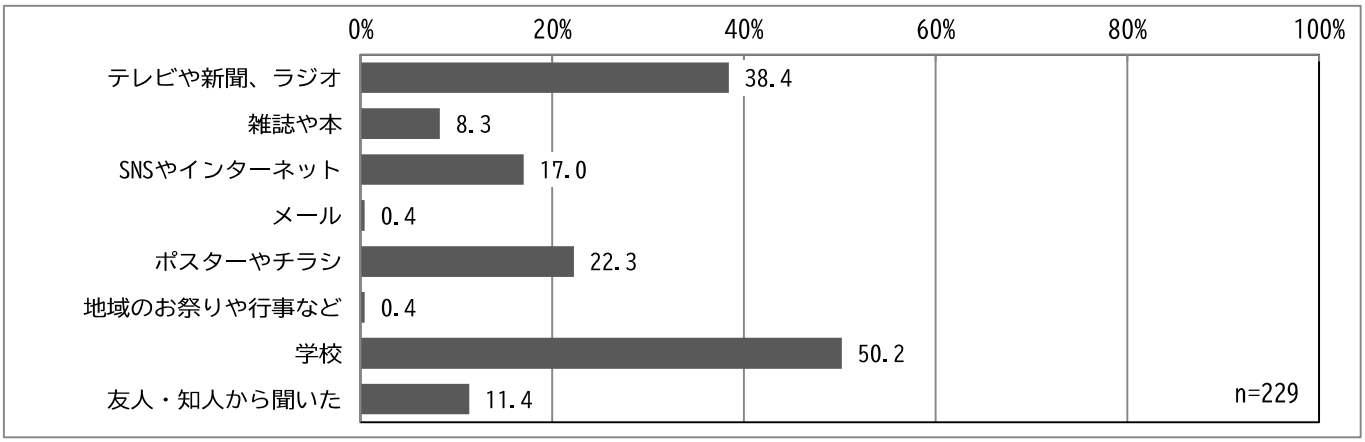


【高校生年代】

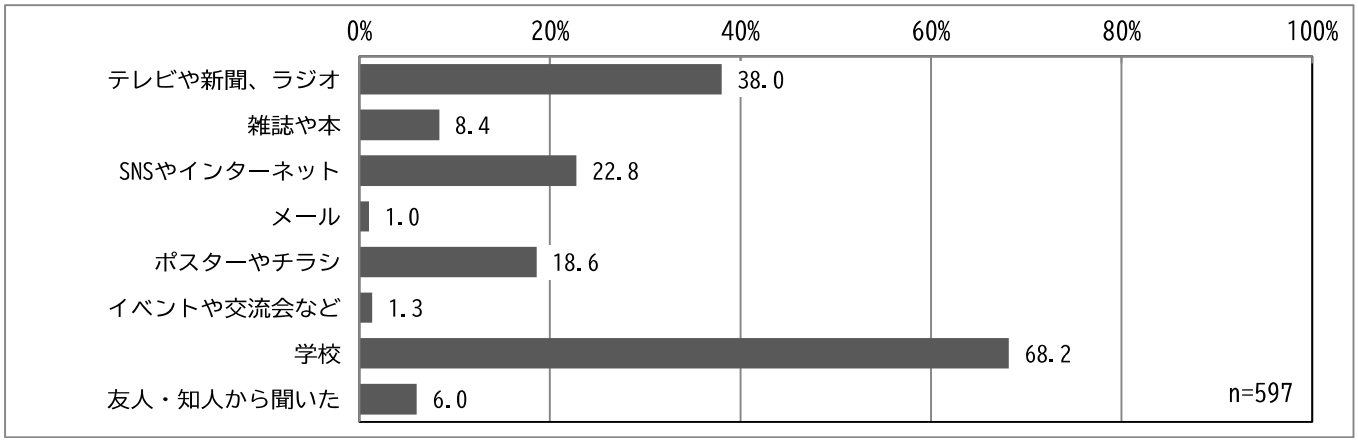


○ヤングケアラーについて知ったきっかけでは、すべての学校種で「学校」が最も多く、小学生 50.2%（大分県 23.7%）、中学生 68.2%（大分県 30.9%、全国 27.8%）、高校生年代 63.0%（大分県 40.0%、全国 32.7%）

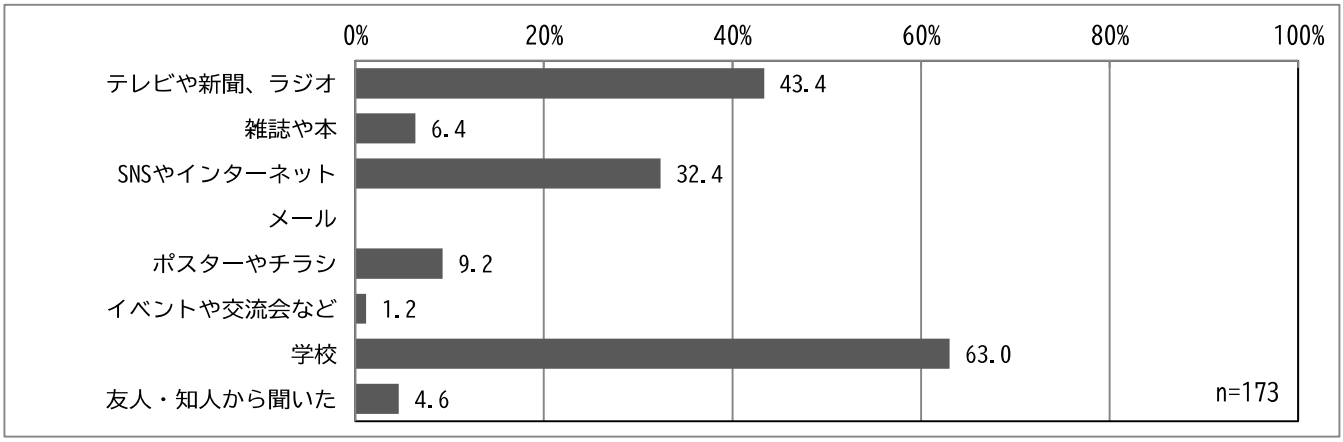
【小学生】



【中学生】



【高校生年代】



ヤングケアラーに関する実態調査結果のまとめ

①　ヤングケアラーの存在

〇世話をしている家族がいると回答した児童・生徒が 166 人おり、世話のためやりたいことができない（ヤングケアラー疑い）と回答した児童・生徒が 23 人いることが確認された。

〇調査の結果からヤングケアラーと疑われる児童・生徒は 23 人（記名あり 17 人、記名なし 6 人）であり、児童・生徒との面談もしくは所属の学校からの情報提供により、早期の対応が必要。

〇ヤングケアラーと疑われる児童・生徒 23 人のうち、臼杵市要保護児童対策地域協議会において、管理している児童・生徒 1 人が重複している。その 1 人についてはすでに支援に繋がっているものの、その他 22 人は、臼杵市要保護児童対策地域協議会で把握ができているヤングケアラー疑いのある児童・生徒の数よりも多くなっている。このことから、ヤングケアラーの問題が表面化しづらい特徴を有していることが示されている。

〇多くの支援機関が横断的に支援をしていけるよう連携が重要であり、家庭状況の機微な変化に気付き、支援を行うことが必要。

②　ケアの状況

〇世話の内容については、小学生は家事（食事の準備や掃除、洗たく）の割合が多く、中学生、高校生年代は、見守りの割合が多い傾向がみられた。

〇中学生、高校生年代の児童・生徒の世話の対象は、兄弟姉妹の割合が多い結果であった。

〇世話の頻度については、小学生、中学生、高校生年代ともに「ほぼ毎日」と回答した割合が多かった。

〇世話の理由については、中学生、高校生年代ともに世話の対象が「幼い」という特徴を有している割合が多く、世話の対象が兄弟姉妹の割合が多い結果と重複している。

〇上記のことから、家事支援（掃除、洗たく、子の見守り等）を行うなど、負担軽減につながる支援サービスが必要。

③　ケアの影響

〇世話をしていることで、「進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変えた」等の深刻な影響が出ている生徒が高校生年代に存在することから、早急な対応が求められる。

〇調査の結果、小学校全体の約 2.6%、中学生全体の約 1.1%、高校生年代全体の約 0.9%が、世話をしているため、やりたいけれどできていないことが「ある」と回答している。

〇相談ができる人はいるものの、実際には相談していない児童・生徒も一定数いることから、気軽に相談できる相談窓口の設置及び周知が必要。

④　ヤングケアラーの認知度

〇ヤングケアラーの認知度については、小学生、中学生、高校生年代、すべての学校種において、大分県や国より大幅に高くなっていることから、ヤングケアラーの周知活動に一定の効果があったものと思われる。

〇特にヤングケアラーを知ったきっかけとして、すべての学校種において、「学校」が最も多く、すべての学校種において、大分県や国より大幅に高くなっていることから、臼杵市における学校を通じたヤングケアラーの周知活動の成果が現れていると考えられる。具体的には、児童・生徒 1 人 1 人にパンフレットを配布している。児童・生徒にとって身近な学校を通じた周知活動の有効性が証明されたことから、今後も更なる周知活動への取り組みが必要。

⑤　現在の対応状況と今後について

〇記名式のアンケートを実施したため、ヤングケアラーに該当する疑いのある児童については、所属する学校へ情報共有し、子ども子育て課もしくは所属の学校職員より児童へ聞き取りを実施中です。

〇支援が必要な児童の取りこぼしがないよう、令和６年３月中に、各学校を通じて、児童・保護者に向けたヤングケアラー調査結果に関する情報及びヤングケアラー支援に関する事業・ヤングケアラー相談窓口の紹介を行い、ヤングケアラーに関しての周知徹底を行います。児童に向けては、ヤングケアラー支援に関する事業をわかりやすく伝えるため、チラシの作成を行い、配布予定としています。

（主なヤングケアラー支援事業）

・支援対象児童等見守り強化事業（要保護児童等の家庭を訪問し、弁当や日用品等の配布を行う支援）

・子育て世帯訪問支援事業（ヘルパー派遣により掃除、調理等の家事支援）※令和６年度新規事業

〇子どもやその保護者を地域で見守り、地域で支え合うそのような仕組みが大切であるため、臼杵市要保護児童対策地域協議会やうすきプラットフォームなど多くの支援機関が横断的に支援をしていけるよう連携強化を図っていきます。

◇ヤングケアラーは、家庭内外のさまざまな課題が複合的に含まれており、また、ヤングケアラーの当事者が自覚しにくいという特徴を有しています。

◇児童の様子はもちろんですが、家庭状況の機微な変化を把握、モニタリングしていくことが、支援のなかでも重要な部分といえます。

◇本市においては、児童や保護者を支援するさまざまな事業（要保護児童関連では、主に支援対象児童等見守り強化事業、子育て世帯訪問支援事業等）を活かし、児童や保護者への支援に結び付けていきたいと考えております。

ヤングケアラーに関する相談窓口について

臼杵市子ども・子育て総合支援センター「ちあぽーと　家庭児童相談室」

家庭児童相談員やちあぽーとの職員が家庭や子ども本人の困っていることを確認し、困っている内容に応じて関係機関（学校、スクールソーシャルワーカーなど）と一緒に対応いたします。

また、臼杵市では、ヤングケアラーに関する相談窓口の拡充として、相談申込フォーム、オンライン相談窓口を設置しました。

◇ヤングケアラーに関する相談申込フォームについて

・相談希望がある方は、基本情報（氏名、連絡可能な時間帯等）の入力をお願いします。後日、臼杵市子ども子育て課よりご連絡差し上げます。

【ヤングケアラーに関する相談申込フォーム】⇒

◇う♡（すき）ラクまどオンライン窓口予約について

・オンライン上（対面）で相談をお受付いたします。

【う♡（すき）ラクまどオンライン窓口】⇒

電話相談：０９７２－８６－２７１６（平日　９：００～１７：００）

大分県ヤングケアラー専用　電話相談窓口等について

大分県では、大分県内のヤングケアラーの支援のため、下記のとおり相談窓口を開設しています。

電話相談：０９７－５４６－１４５１（２４時間・３６５日対応）

ＳＮＳ相談窓口（ＬＩＮＥ相談）：https://lin.ee/lR4LuAY

≪詳しくはコチラ（URL）≫

https://www.pref.oita.jp/soshiki/12480/surveyoftheyoungcarer-sodann.html

児童相談所の相談専用ダイヤルについて

児童相談所は、都道府県が設置する機関で、子どもの健やかな成長を願って、ともに考え、問題を解決していく専門の相談機関です。虐待の相談以外にも子どもの福祉に関する様々な相談を受け付けています。

電話番号：０１２０－１８９－７８３（フリーダイヤル）

受付時間：２４時間受付（年中無休）

その他相談先について

①「２４時間子どもＳＯＳダイヤル」

いじめやその他の子供のＳＯＳ全般について、子供や保護者などが夜間・休日を含めて２４時間いつでも相談できる、都道府県教育委員会などによって運営されている、全国共通のダイヤルです。

電話番号：０１２０ー０－７８３１０（フリーダイヤル）

受付時間：２４時間受付（年中無休）※通話料無料

②「子どもの人権１１０番」

いじめや虐待など子どもの人権問題に関する専用相談電話です。

電話番号：０１２０－００７－１１０

受付時間：平日８:３０～１７:１５　※通話料無料

土・日・祝日・年末年始は休み